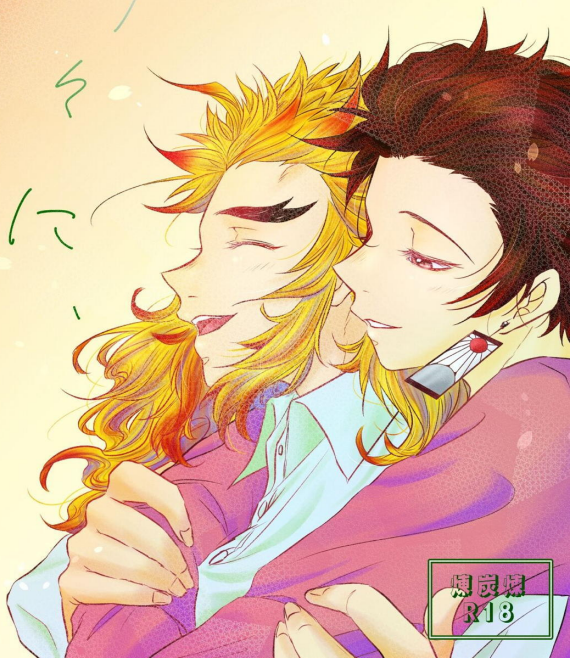


折

々

に



愚炭燻
R18



生存if（煉炭）の大正軸を前提とした転生現パロ（炭煉）です。
キ学的舞台を模していますが詳細な設定は異なります。
会話上で煉炭・炭煉の両方を示唆する要素がありますが、
成人向けページは炭煉のみでリバ描写はありません。
上記をご理解の上、何でも許せる方のみお進みください。

初めまして！
教育実習生の
瀧門炭治郎です！

「初めまして」

屈託なく笑った
彼の口から麗らかに
響いたその言葉が

よろしく
お願いします！

その時の俺には
まるで

有利鉄線のような
だった

良好な第一印象は
ずっと心掛けていたことだ

それなのに

ただそれだけのことが

差し出された手を握り
笑顔で定型文を返す

果たしてうまく
出来ていたのか
定かじやないか



歴史教員の
煉獄杏寿郎だ

はっきりと名乗れば

分からないことは
何でも聞いてくれ
る門……

専門少年！

かつての目と
同じに呼べば



何か変わるのじゃないか

そんな刹那の期待は

はい！

煉獄先生！

桜の花びらと共に
散って消えた

折

々

に

、



刀を携え鬼を斬っていた時代



記憶があるとは言ってもそれは他と断片的で



脳の許容を圧迫しない為の忘却本能は

正しく前世の記憶にこそ作用しているようだった

けれどどんなに薄れ
ようと忘れられるはずの
ない彼の名

服部を覚悟した
俺の魂を引き戻した
黎明の機突

命尽きるその時まで
この胸を温めた甘やかな日々



同姓同名の別人の
可能性をまるで
考えない程に

あの日見送る側として
途切れた夢の続きが
見れるのだと

少しも疑わず
待ち控じていたのに



実習生名簿で名前を
見た時の高橋は
計り知れなかった







よちや覚えて！

さつまいも…



さつまいも菓子パン！
特大サイズ！

俺が作りました

こゑへ



もしかして
さつまいもか？

過去だとはいえあの記憶は
僕にとつても決して明るい
ものばかりではないはず

平和な世で何不自由なく
幸福に生きている彼に
習むことそれ自身が
既に不機嫌だ

こうして再会出来ただけで
十分すぎる奇跡じゃないか

あの頃のように明日
をも知れぬ身で日々
度知れぬ恐怖に脅か
されることもない



今の彼には
無限の遠距離が
あるのだから



...

いやーさつまいもは
今も好物だ

よかったあ
あ、こーびー
焼けますね！

ああ、ありがとう

思い出すことに
耐待するのにも
覚えてないことに
落胆するのも

全てが俺のエゴだ



フラックでいいですか?



何から何まですまんな!



あれ? 先生虫に刺されてませんか?

おめでとう



ふふ、本当に好きなですわねお子

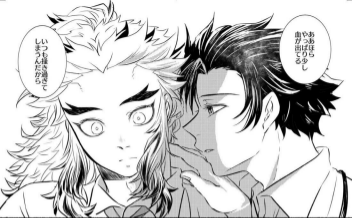


気が付くと連続に痺くなってきたな!

おー!!
痺いちやダメです!
痺持ってるんで!



ああ! どういえば何度か気になっただかも



おおほら
やっぱり少し
血が出てるし

いつも推さ過ぎて
しまっただから



またこんな時間に
外に居て

夜に居るの
まだ慣れないん
ですか？



杏寿郎さん



虫に刺され
ますよ

眠るのが
惜しくなって
しまったんだ

こんな風に
ぼんやり月を
眺められることが
ない

まだ特別に
思える



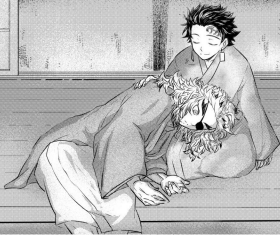
そうですね

吉寿郎さんの
隣でだなんて

俺はまだ時々
信じられません









ここ
掻きもじったでしょ

ん？

血が出てますよ

どうか

ちっ

ん

大事に
して下さい

俺が貴方の
ものということは

白寿郎さんも
全部

俺のもの
なんです

俺が俺やむとすれば
貴方を置いて行って
しまうことそれだけ
時を同じく出来たらいい
のにも思ってしまう
この手で成してしまおう
かも

だからどうか言わないで
おめなないかもしれないから

俺は本当にするくて無い



ん？

何が不安なんですか？
貴方の横に居られる今が
俺はこんなに不幸せなのに

俺は専任だ

言わせない
ようにしてる

この人が不安になる
理由なんて一つしか
ないのに



はーん

ん？

七ツバ

俺の言葉が
あつたのだと

その言葉が
ずっと

鳴り止まない

求めてばかりで

呆れられて
しまっそうだ

記憶ですよ

だってまだ
俺は

慣れてすらいない





いつも血が出るまで
探いちやうでしょ？





皮治郎ッ



ん

皮治郎ッ

ん

ん

ん

ん



まだそんな風に
思ってたから
なんて光栄です

前は会話も
ほとんど出来な
かったから



あ



前は……？

まじやま
まじやま



どっいう意味だっ



すまん……

止まれなかった

いえ、
大丈夫です
もし無理な
ら……

改めて聞くが
覚えているんだな？

ええ、
突然キスされ
ても慣らな
いには

う……本当に
すまない……

ふふ





あはは…
ですよぬ

ああ、聞きたいな

言わなきゃ
ダメですか？



に、二度目？

前世と今世の間に…
もう一つ生きた時代が
あったということか？

その時代の
君は…一体…
どうなっ…



置も
載ってるのは当時の
俺の名前だけです
けどね

目撃者が居ません
でしたから



検索すれば出て
くると思いますが
当時の記事

3頁
方だった



栗田谷区
通り魔殺傷事件

男性一名が搬送先で死亡



3巻 通り道

それは

何度ぬい出そうとしても
はつきりしない

けれど定期的にふと通る
陰鬱な断片だった

戦慄として襲った
何かがあの日は

揺えるように
赤い夕日と



正光の人影

あつ

何が起きているのか
分らずらよて
分らずにいた

気付いた時にはもう
二つの影が重なり
合っ



呻き声ひとつ
聞こえなかったから

指の端まで
口元だけ



こちらに首だけ
接ったぞの人が
それは優しい声で

「ぶっかって
ごめんね」

暗くなるから
早くお帰りを

そっけりから

うん！

事の異常性にも
気付かず

言われた通り
扉を返して
しまったのだ

ポタッ

後ろで誰かに
聞こえた気がした
「やっ」とまもれた
という言葉は

記憶の脳筋で付け加えられた
幻聴なんだと思っていた





覚えてるんですか？

いや！
言われて初めて
どうだったかも
知れないと思う
程度だが……



あの時の青年が君……？

俺を庇って
死んだのが……
君だっていうのか？



ああ、俺はここで
貴方を守るために
生まれたんだって



死ぬことにしても
俺いはなへ

聞いてくんならあつた



俺も一度目の記憶は
ほとんどないんです

家族も友人も
居たかどうか

でもだからこそ
あの瞬間の俺は
確信してました



何も知らずに
のうのうと俺は…

今日までを
どう詫げれば…



ちゃんと聞いてました？
俺は願しかつたんですよ

今度こそあなたを
守りたいって
その願いが
叶ったんですから

今ここに吉寿郎さんが
こうして居てくれる
それが何よりの幸福です



覚えてない振りをした
のは俺を気づかっての
ことだったんだな

何匹生まれ変わっても
君の魂は懐しいままだ



廣治郎？



健登さんは
俺を過大評価
してますよ
昔も今も

何の！
話をしている？



黙ってたのは
そのせいじゃない
って言っても？

一日会えればいい
それだけのはず



一度目のことば
あなたが悪い出さ
ない限り黙って
おくべきだった

そもそもを言えば
やっぱりここで
出会わない方が
良かったんです

どうして！そんな
ことを言うんだ！

聞いて貰ったのは俺だ
君にまた出合える
ことを俺は何より
望んでいたんだぞ？

俺はね
健登さん

貴方を



この手に掛けよう
としたことがあるんです

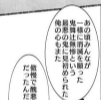


いっしょだっ

……



俺の笑顔が
迫った頃



あの頃みんなが
一様に酒宴を催った
鬼舞辻無惨という
悪徳の鬼に見初められた
俺の心もまた

無惨で悪徳な鬼
だったんだと思います



俺はもう貴方が想って
くれていた率直で純朴な
男じゃないんです



貴方を強していくのが
言い様もなく耐え
難かったんです

いっせ自分の手で
俺を同じくして
しまえば……

貴方の寝顔を
見ながら何度も
そう思いました



俺の貴方への
執着は凄まじい

何事でも出来たとしても
誰かが大泣きするのは
俺が望んで居るわけ
ない

由緒長いし、おれは
おれにだけ行かされた
おれは俺にだけ行かされた
おれは俺にだけ行かされた

俺は俺のほうで下を
手放さない

だから

幻滅して下さい

関係期間が
終われば
もう会うことも



どうしてこれ
よかったのに

易々と首を差し出し
そんな程、あの頃の
俺は弱って見えて
いたかな



思っただけなら人は
どんな残酷なことも
出来てしまうものだ

連れていってくれ
たらいいと俺も
どれ程思ったか

君のそれが鬼だと
いうなら、父や
千寿郎が居ながら
そんなことを望んだ
俺もまた鬼だ

実際に出来は
しなかっただらう

そして幼い俺を
他でもない君が
騙ってくれた

鬼であるはずが
ないんだ





あの頃はそんなこと
少しも思ってません
でした

本当に爪の生傷も
考えたことはな
かったんです

ただ傍に居られることが
この上なく願しくて
選んで貰えたことも奇跡
みたいで

身体を求められた時も
俺が持てるものでほんの
ひと時でも煉獄さんを
満たせるならこんな幸福な
ことはないって間違いない
思ってたはずなんです
すごく気持ちよかったです



あつこ
うん
めんじょ
あへ

だから
おかしいんです

今の自分にならって
貴方のことを考え
れば考える程

どうしてか懐古歌や
恋曲が溢れてきて
場所の目にも触れない
者になりたいなんて
考えてしまっ



本当のあなたはほ
ど
強い人ではなく

心の底では愛に慣
れ
内面を無理やりでも
願って欲しいと願って
いる人だったんじゃないか

そんな風に想像したら！
尚更抑えが効かなくて

貴方に記憶があるのは誤算でした

だから覚えてないふりをしたけれど

それも逆効果だった

別感許されないことを言ってる自覚はあります

記憶以前に、こんな人として貴方に向けて抱いていた感情じゃない

前世とは何もかもが違う
覚えてしまったら無念で多くのものを壊してしまおう
一時の感情に囚われるな
その為に費やした時間があつたはずだから

だから捨てて下さい

今隼さんの中にある未練のようなもの、それは全て前世の俺に對してのものです

今の俺は別人になっちゃいました

あなたが思う専門皮治療は到底あり得ない

俺自身ももうこれ以上……

想像の中だったとしてもっ

あなたを誹謗するのは嫌なんです！

覚えてるだろ

この人の胸以外での恋の仕方を

だけど……



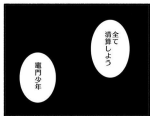
今日まであなたが俺に向けた視線、その全部が物欲しそうで、徒願で

俺には加虐心まで煽るほどだった





お返りしている物に
「お礼さ」







まあ！
当時の俺が同じことを
言えたかは分からん
がな！
生粋の日本男児
だったし！

俺も
ですよ？

長男
だったし！

俺もです

うむ！……今更だが！
確認せず事を進めて
すまなかつた！

いやそれは本当に
全く気にしてません

ありがとう！

先程告白して
くれたこと

俺の手が及ばない
時代だったとはいえ
悪い癖んだ君の時間を
経んじるとわりはない

だからこそどうかが
疑わず聞き留めて
欲しい

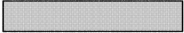
今日まで絶えず抱望した
君が今、他でもない俺を
求めてくれるというなら

どのような形であれ
俺の心は高揚すら
覚えるほどだ

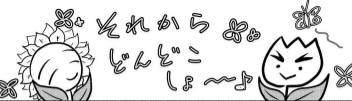
君のセのたしてくれ

そして願わくは

二度と手放さないでほしい









皮治郎…

俺はそんな
意地悪なことは
困かな方ったと
思うが

つ、…誰か重ね
すみません！

自分ではおれまだ
愛さずおれおれ

はいはい
では答え合わせ
だな！

未知なることへの
不安はもちろんある

だが同じくらしいの
好奇心もあって
何より

愛しい人が自分
だけを見てくれる
瞬間に集がれて

気が通っている
といった感じだ

同じ
だったか？

ええまあそうですわ
そこまでの余裕は
なかったですけど

そうか！
はしたなくて
すまん！

いえ

じゃあ、
俺のことも答え合わせ
してください

うん…



何故も想像しました

開弄されてる貴方の姿

あの頃の俺はさっ

貴方もよく俺にこうしたでしょ？

俺に居てなお貴方に片思いのまま



だから今度こそ最初から最後まで

前世ではさせてくれなかったですよ

勉強してたつて言ったら引きまます

証めますね



だめだ... 勝手に戦ったら

出てしまっから



腕の中に閉じ込めておきたいと思ってしまっんです



そんなものを

飲むんじゃない!



今の俺は
無地帯なので

いいんですか?

にゅぷにゅぷ



前世からの
夢だったので!

冗談でも
キツい



醒るといじめ
ちやいますよ?



君ほど真直じゃ
なかったはずだ



答え合わせする
余裕なかった
ですか?

いい声



あ



君は…

とんでもない
顔をするなあ



ええとうとう…

うっかり

ごちゃごちゃに
抱かれてもいいが、
と想ってしまった

よもやよもやだ



くた

ああ！すみません！
辛かったですか！



絶対だめなアッコが
私をゴキーン。

うっかりさんには
寛容を以てはいい。

気を取り直す呼吸



調子狂った...



そぞ、ぞうぞう...
すまん、殺陣

騙ってます!
主に俺の殺陣を!

いや!今のは
騙ったわけでは...

騙らないでって
言ってるのに!!



入りますね
香寿郎さん

ん



心配、無用だ
それより
そっちの腕めは
どうだ？



また貴方は…

下手なこと口走らない
ように我慢してゐるのに…



君を満たさせている
実感が、俺は欲しい

出し惜しまれ
ては、回るな



室外すんなり
入っちゃいま
したわ

他の時はかなり
苦勞したのに
ちよっと悔しいな

アハハハ

あ、ゆた、ゆた、あ、ゆた、ゆた

辛かったら
言つて下さい
ゆつくり動くので

たん♡

たん♡

強くない
ですよ

想像のどれとも違う

あの香寿郎さんが
俺なんかに見かれて
乱れてるなんて

気を抜いたらすぐ
出ちやいそうだ

はち♡

はち♡





ふん

その心地には

俺もミンツ
覚えがあるな

ハイッ ドイツ ゴリョウッ

ジュンツ



でも俺は！

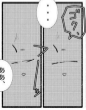
貴方ほど優しくは
出来ないかもしれ
ません

ごめんなさい
俺は今から
吉寿郎さんを

さっちゃんさやち
娘への

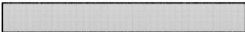


いいですか？



ああ、

甘んじて
食われよう





やけに鮮明に語る

あれやこれや

深さ800メートルの穴に入りたい



俺は気絶してしまっただのか

これはヤバイよ

あ、はい、7回目あたりで

7回：体力には自信があつたはずなんですが若さとは凄いな

若さのせいですかね

廣治郎、そこは年上の矜持を立てなさい

あ、はい

バツマ、どうぞ。

先を3回に通り算して来たのだ。



異合悪くはないですか？

体も一応拭いたんですけど

ん、まあ今すぐは健敏定という訳にはいかなそうだが大丈夫だ

すみません！無理させて！

構うものか

ちっ。

君のものにして貰えた証拠ださうよ

俺は今最高に幸せだ



こんな男くもない
君より大膽な男を
よく知りたものだ
感心する

奥に返ってみる
となんと……

俺の名前を甘く呼ぶ
貴方の声が
まだ耳に残ってる



さ……
夢みたくてでした



聞かれないよう
返らしたという
のに君は

気持ち
良かった
ですか？

すみません
態度が悪くて
どうでした？

聞き直さん
じゃない



聞いて直させ
ないでほしい……

さ……
さ……
さ……



今
あまり

ぶり返してしまい
そうだから……



うん！

その……良……



さ……
さ……
さ……



かわいい



ふん



今の俺は恰好が
付かないかも
思わないか！

夕飯食べずに
始めちゃいな
したからな



寝てる間にカレ！
作ったんですけど
食べますか？

開気

深夜ですよ
開きして



君はどんどん

大人びて
しまっなあ



出会った時も
思ってたが



いつでもずっと
先に居た貴方に



……
かわいいなんて
言ってる……

違うんだ、ただ
対して自分が足を
止めているように

不甲斐なく
思えるという
話だな！

追いつき
たくて

必死でしたから



無物を消った
その日にも

吾等郎さんはまだ
目覚めていなかった



飲み込まれた俺を
力強く押し上げて
くれたお母さん



ああ、
駄目だったんだって

お母さんに行って
話を聞いたんだって



上へ上がることを、
母の二脚蹴って
しまった俺は、

最後まで強く
連れて、助けられる、
ばかりだった。



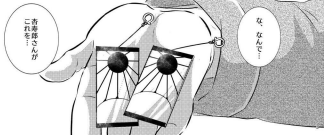
分かったんです

抱きたいと思った無物は結局
夢中で追いかけてた貴方に
手が届いたと実感したこと
だけの幼稚な願望だったこと

あの日から積もらせた
無力感を昇華したくて
俺はただ必死に両伸び
してただけだった

どちらがどちらを
抱くでも違わない
と即答してしまえる
貴方は

やっぱり大人で
すごくかっこよくて



音が通ってしまった後、
これの所在をどうするか
という話になって

一緒に納めるより
やはり親族の元に
あるのが妥当だと
言ったんだが

煉獄さんが
持っていて
ください

兄も喜ぶと
思うので

しかし…

それと一緒に
受け継がれて
いた神楽は

鬼を倒すため
のものです

そして鬼は
居なくなつた

音が好きだって

貴方に言われた
からどうぞです

風鈴の音が
好きだけれど
少し寂しくなって
しまつらしいんだ

でもこの音は
あつたがくて
懐しくて

安心する音だつて
言ってくれたから

って、
しつかり抱えて
ましたよお

うむ

そんなことも
しれんな

お兄ちゃん
かわいい人
入道りか

なので持って
いて欲しいです
他でもない貴方に

分かった
しつかり
しよう

それとー

ん？

どうか良い目を
感じないで下さい

貴方の傍で
兄は間違いない
幸せでした

うん

私の夫は貴が
いいので分がる
んです

私も
兄のことは誰より
よく分かります

兄を幸せに
してくれて

ありがとうございます

うんーうん

ありがとうございます



はい

ですか？

カ

ラリ

あたがかんで
優しくて

君が密に
居ると感じる
安心する音

杏寿郎さん！
俺…俺ま…

うんうんよしよし
もうそんなに
泣くんじやない

君に頼られたら
俺が強く側に
なってしまうぞ

そんな可愛い
モフモフ顔で言わ
れてもピンとこま
せん…

おまを…

降ろしてる俺は
ダメなのか？!

ダメじゃない
です可愛くて
好きですでも
いつもの俺が
やっぱりさっ
とします

おひ？



愛してます
貴方ですが
無理です

また俺を！
傍に置いて
くれますか？

放す気などない
君もどうしてく
れる約束だぞ？

今は
今度こそ絶対に

貴方を置いて
行ったりしま
せん

おまを
食われた
甲斐があった



あの頃の君が
思うほど強く
はななく

心の底では
愛に飢えては

内面を無理やり
いかに
でも隠している男

君にぞつ
見えたなら

そつだったの
かもしれない

ドキドキ
ドキドキ
ドキドキ
ドキドキ
ドキドキ
ドキドキ

わ、察れて下さい！
あれは陰鬱に歪曲した
精神の権が言ったただの
妄言で！

ハッピー!!
好き!!

と、い、う、か、な、ん、で、今!
隠し返すんですか!

どうやら君の態度が
うつつてしまったらしい!

もー!!!



それならば
なあ政治家

俺は俺が君にどう
映るのかを出来る
だけ知って読みたい



情に譲って自論を曲げる
という訳じゃないが
同じように感じるものが
一つでも増やせたなら

並んで見る景色は
さつと特別になる
気がするんだ



君の目に映る景色を
俺には生煎叶わない

どうどう

定もぞつた

同じものを見聞き
してもそこには人
それぞれの解釈が
存在し

そして誰にも
否定が出来ない

あの頃、君から
俺に向く感情には
多分に憧憬が含ま
れていた

それが今なお
扉を引いている

最初に知り込まれた
ことは簡単に私に
出来ないものだ

もちろん
出来なかったけれど

でも今ならなれる
と思わないか？

対等な関係に

この時代に
鬼は居ない

信念の矛先は
無限に変えられる

どんな…
俺なんか？

君との距離は
大きく変わった
んだ

だからこそ







ところで炭治郎
さっきの餅だが
本当に梅が抱いて
もいいのか判

だからそう
言ってるでしょ？
何をそんなに
必死なんですか

それが自分でも
聞くほど悪かれて
しまっただな！
どの…
食べ終わったらか！
早速いいだろうか！

3時ですよ
眠いです
どっちでもいって
あんなにカッコよく
言っただけに！



よし、
早く寝よう



思えば前世の俺は
僕のせいで君を十分に
満足させられて
なかったと思うんだ

名替換回のお代わりも欲しい！
そしてお代わりも欲しい！

十分満足してた
というか…

そんな余裕
なかつたん
だつてば

全体的に
お代わり
がほしい

撤回しようかなもう



そ、それは直ぐ
ないぜ！
男の二言は食えん！
発言には責任を
持つべきだ！

そっくりそのまま
返さるって
気ついてます？
カレ！ 零さないで
下さい

炭治郎、好きだ
心から愛している

はいはい俺もです
今日は寝ます

君！ やっぱり
ものすごく悪地帯に
なってるぞ！
あの頃の桃朴さは
何処へやっつて
しまったんだ！

心を癒やしたとき一睡
できちやつたんじゃない
ですかね！ あ！もう！
だからカレ！ 零さないで
下さい！

確かな想いで言葉を紡げば

心は繋がる

願いは紡べる

傍らに寄り添えた瞬間に
喜びを

両の目に注がれる景色に
幸福を



あ、すみません
ゴム使い切っちゃって
ました

よちや……

おしまい

折々に、